

## 【佐賀県教育委員会】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）等を踏まえ、目指す学びの姿を「誰もが いつでも どこでも 誰とでも 自分らしく 学ぶことができる 子どもの主体的な学び」とする。具体的には、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを通じて、多様な状況にある子どもの学びを保障する。また、児童生徒は自己のデータを分析・評価し、自己の学びを調整したり、クラウドを活用して、どこにいてもデータを活用したりする。さらに、児童生徒は様々な人とつながり、学びを広げたり深めたりしながら、自分の良さや可能性を知り、多様な視点で学ぶ。

#### 2. G I G A 第 1 期 の 総 括

##### (1) 現状

令和3年度に「学びのSAGANアップデート」～1人1台端末で創る「広がる・深まる・つながる」学び～と銘打って、日常的に端末を活用できるように、1人1台端末と通信ネットワークの整備を行ってきた。また、1人1台端末活用の推進のために、教職員対象の研修や佐賀県ICT活用教育サイト「SAGAEコネクト」を通じて情報発信を行ってきた。これまでの「一斉授業だけの授業」ではなく、「子どもが主体的に学ぶ授業」という授業観、学習観の転換を通信や研修会を通して図っている。

##### (2) 課題

- ・1人1台端末・ネットワークの課題として、起動に時間がかかったり、一斉にインターネットにつなげようとする速度が遅くなったりするという現場からの声が上がっている。
- ・教師が指示を出した際にのみ端末が使われる傾向があり、日常的な端末の活用は十分とは言えない状況にある。
- ・1人1台端末の活用において、学校間の差、教職員間の差がある。

##### (3) 解決策

- ・子どもがいつでもどこでも主体的に学ぶことができるようにするために、クラウドを活用することを前提とすることから、課題解決に向けて専門家を交え、検討を行っていく。
- ・文部科学省リーディングDXスクールによる先進的取組、エリアリーダーや教科リーダー、スーパーティーチャーによる活用事例について、佐賀県ICT活用教育サイト「SAGAEコネクト」を通して更なる情報発信を行う。
- ・日常的な端末活用を進めるため、教職員を対象にした研修を行う。

- ・毎年、年2回行っている県立学校訪問の際に、「教育DXに係るKPI」について、目標に達しているかを随時確認し、必要に応じて支援を行う。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

#### (1) 1人1台端末の積極的活用、個別最適・協働的な学びの充実に向けた方策

「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「教職員と児童生徒がやりとりする場面」、「児童生徒同士がやりとりする場面」、「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」での利活用を促進するために、以下の方策を行う。

- ・クラウド機能を使った共同編集や他者参照の学び等を、教員自身が体験しながら学べる研修を行う。
- ・CBTやデジタル採点支援システム等の活用により、生徒の成績に関する分析結果が速やかにフィードバックできるよう取組を推進していく。
- ・生成AIを使って生徒自身が、考えを整理したり、情報活用能力を身につけたり各教科の学習に活かしたりできるように、「佐賀県生成AI利活用ガイドライン」を県全体に周知する。
- ・県が独自に開発した英語学習デジタル教材を活用し、個々の理解度や進度に応じた個別最適な学習を推進する。

#### (2) 学びの保障に向けた方策

「希望する不登校児童生徒への支援」、「希望する児童生徒への端末を活用した教育相談」、「外国人児童生徒に対する学習活動等の支援」、「障害のある児童生徒に対する学習活動等の支援」での学びの保証を担保するために、以下の方策を行う。

- ・教職員向けの研修を行ったり、佐賀県のICT活用教育サイト「SAGA Eコネクト」を通じ、情報発信を県全体に幅広く行ったりする。
- ・「外国人児童生徒に対する学習活動等の支援」が発生した場合は適切に対応する。
- ・全国学力・学習状況調査や県独自調査の結果、さらには県立学校訪問における聞き取りを踏まえ、1人1台端末を活用した学びの保障の進捗状況を把握し、必要に応じて学校への支援を行う。